

目次

- 1・街角ウォッチング
- 2・高森大工さんの家づくり
- 3・リノベーション
- ・トピックス
- 4・スイーツデコ体験
- ・「チャコの家」わくわく教室 & 相談会



スポーツの秋！

身体を動かすには、今が最も適した季節ではないでしょうか？とは言っても私自身、趣味である自転車も満足に乗っていないのが実状です。しかし先日まで私の心を熱く燃やしてくれるものがありました。それは、ワールドカップラグビーの日本代表の大活躍です。勝ち負けの番狂わせの少ないと言われるラグビーにおいて強豪南アフリカやサモア、アメリカを撃破した活躍ぶりには世界中が喚起しました。残念ながら決勝トーナメントには進めませんでした。長年低迷してきた日本ラグビー界にはとってはとっても明るい光になっています。また人気者の五郎丸選手のフリーキック前の独特のポーズや活躍ぶりも多くのファンを魅了しました。そういう私もそのファンの一人で毎回食事前には五郎丸選手のポーズの真似をして合掌してます(笑)



街角ウォッチング

辻川さん家の
天日干しコシヒカリ

丸岡町末政



9月初旬に、坂井市丸岡町末政地区の田んぼに突然大きな物体が現れました。「あれは何なんだろう？」と思い、そこで作業をされていた辻川さんに話を伺うと、それは『稲架掛け(はさかけ)』と言う昭和40年頃まで行われていた稲を干す手法だそうです。別名『はさば掛け』とも呼ばれ、稲架木と竹で枠を組み、稲を稲架に掛け2週間程、天日干しして脱穀するというもの。しかし今では、機械化が進み乾燥機で時間をかけずに乾かせる為、行われなくなってしまったらしいのです。



末政地区の稲架掛け

ではなぜ今回、稲架掛けを立てられたのでしょうか。更にお話を伺うと、元々、現在、国が行っている九頭竜川流域の用水のパイプライン化にあります。パイプライン化とは用水不足や水質汚染等で稲の生産に支障のある用水を地中に埋め安心して安定に供給する為の工事で、それに伴い坂井農林総合事務所さんが美味しい福井のお米を更に推進、PRをする為にモニユメント的な稲架掛けと横断幕設置の協力依頼を辻川さんにされたんだそうです。



お手伝いしてくださる林田さん

そこで、お若い頃に稲架掛けの経験があった辻川さんは、近所の方にも手伝って貰いながら今回の稲架掛けを作るに至ったそうです。作ったお米を試食された辻川さんは、天日干しで甘みを増したお米を実感。多くの皆さんにも食べて頂けるように丸岡町の一筆啓上茶屋にて販売することになりました。また当社でもお買い求め頂けます。是非食べてみて下さい！



2kgで1,700円(税込)にて販売中です。

数年後には更なる品質と食味が向上した福井県産のお米を栽培する計画も推し進められています。このように、もっと美味しいお米が食べられる日が来ると思うと待ち遠しくなりますね。